

令和3年度生駒市立病院事業計画書
説明資料

令和3年3月
生駒市

目 次

診療科目	1
病床数	3
人員体制	5
患者数	7
質の高い医療の提供	9
地域完結型の医療体制構築への寄与	15
救急医療の充実	19
小児医療の充実	23
災害時医療の確保	23
予防医療の啓発	23
市民参加による運営	25
環境に配慮した運営	25
収支	27

病院事業計画（平成27年11月改定）		令和元年度 事業報告	令和2年度 中間報告
診療科目	<p>14診療科</p> <p>内科 消化器内科 循環器内科 外科 脳神経外科 整形外科 形成外科 小児科 腎臓泌尿器科 産婦人科 リハビリテーション科 放射線科 救急科 麻酔科</p> <p>上記以外の診療科については、市民ニーズ等の必要に応じて、指定管理者と協議し、追加できるものとします。</p>	<p>16診療科</p> <p>内科 消化器内科 循環器内科 外科 脳神経外科 整形外科 形成外科 小児科 腎臓泌尿器科 産婦人科 リハビリテーション科 放射線科 救急科 麻酔科 血管外科 皮膚科</p> <p>診察日・診察時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診察日 月曜日～土曜日 (祝日、年末年始(12/31～1/3)を除く) ・診察時間 午前 9:00～12:00 夕方 17:00～19:00 (土曜日除く) ・受付時間 午前 8:00～12:00 夕方 16:30～19:00 (土曜日除く) <p>既存の診療科について、常勤医師(内科・救急科・腎臓泌尿器科・産婦人科・麻酔科)の確保を図りました。 また、専門外来として、平成31年4月から下肢静脈瘤外来を開設しました。 さらに、院内の診療科間の連携を深め、より高次、専門性の高い医療機関との連携体制(小児科、脳神経外科等における近畿大学奈良病院や奈良県総合医療センターとの連携体制)を推進しました。</p>	<p>16診療科</p> <p>内科 消化器内科 循環器内科 外科 脳神経外科 整形外科 形成外科 小児科 腎臓泌尿器科 産婦人科 リハビリテーション科 放射線科 救急科 麻酔科 血管外科 皮膚科</p> <p>診察日・診察時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診察日 月曜日～土曜日 (祝日、年末年始(12/31～1/3)を除く) ・診察時間 午前 9:00～12:00 夕方 17:00～19:00 (土曜日除く) ・受付時間 午前 8:00～12:00 夕方 16:30～19:00 (土曜日除く) <p>既存の診療科について、常勤医師(小児科、内科、消化器内科、形成外科)の確保を図りました。 また、より高次、専門性の高い医療機関との連携体制(脳神経外科、心臓血管外科等における近畿大学奈良病院や奈良県総合医療センターとの連携体制)を推進しました。</p>

課題等	令和3年度 生駒市立病院 事業計画書
<p>○令和元年度実施状況調査 今後も市内の医療ニーズや患者動向を注視しながら、常勤医師の確保やさらなる病病連携の推進など質の高い医療の提供を目指し、引き続き疾病の早期発見、早期治療を目指すため、専門外来の充実を検討する必要がある。</p> <p>●令和2年度中間報告 今後も市内の医療ニーズや患者動向を注視しながら、常勤医師の確保やさらなる病病連携の推進など質の高い医療の提供を目指すとともに、引き続きより広く専門外来の設置を目指していく必要がある。</p>	<p>16診療科</p> <p>内科 消化器内科 循環器内科 外科 脳神経外科 整形外科 形成外科 小児科 腎臓泌尿器科 産婦人科 リハビリテーション科 放射線科 救急科 麻酔科 血管外科 皮膚科</p> <p>診察日・診察時間</p> <p>・診察日 月曜日～土曜日 （祝日、年末年始(12/31～1/3)を除く）</p> <p>・診察時間 午前 9：00～12：00 夕方 17：00～19：00 （土曜日除く）</p> <p>・受付時間 午前 8：00～12：00 夕方 16：30～19：00 （土曜日除く）</p> <p>・<u>既存の診療科の医療内容の充実を目指し、常勤医師の確保を図ります。</u></p> <p>・院内の診療科間の連携及びより高次、専門性の高い医療機関との連携を進めます。</p>

病院事業計画（平成27年11月改定）		令和元年度 事業報告	令和2年度 中間報告																														
病床数	病床数 210床	(令和2年3月31日) 実稼働可能病床数 210床	(令和2年9月30日) 実稼働可能病床数 210床																														
	<table border="1"> <tr><td>ICU</td><td>7床</td></tr> <tr><td>小児科</td><td>20床</td></tr> <tr><td>産婦人科</td><td>20床</td></tr> <tr><td>内科系</td><td>79床</td></tr> <tr><td>外科系</td><td>84床</td></tr> </table>	ICU	7床	小児科	20床	産婦人科	20床	内科系	79床	外科系	84床	<table border="1"> <tr><td>小児科</td><td>5床</td></tr> <tr><td>産婦人科</td><td>19床</td></tr> <tr><td>内科系</td><td>87床</td></tr> <tr><td>外科系</td><td>91床</td></tr> <tr><td>HCU</td><td>8床</td></tr> </table>	小児科	5床	産婦人科	19床	内科系	87床	外科系	91床	HCU	8床	<table border="1"> <tr><td>小児科</td><td>5床</td></tr> <tr><td>産婦人科</td><td>19床</td></tr> <tr><td>内科系</td><td>87床</td></tr> <tr><td>外科系</td><td>91床</td></tr> <tr><td>HCU</td><td>8床</td></tr> </table>	小児科	5床	産婦人科	19床	内科系	87床	外科系	91床	HCU	8床
	ICU	7床																															
小児科	20床																																
産婦人科	20床																																
内科系	79床																																
外科系	84床																																
小児科	5床																																
産婦人科	19床																																
内科系	87床																																
外科系	91床																																
HCU	8床																																
小児科	5床																																
産婦人科	19床																																
内科系	87床																																
外科系	91床																																
HCU	8床																																
	<p>病棟編成 5病棟、7対1看護基準（一般） 4対1看護基準（HCU）</p> <p>当初外科系を1床減らして、HCUを1床増床する予定で、計画を作成しました。 しかし、外科系患者をHCUに受け入れることが多いと想定されたため、使用していない産婦人科の1床を減らし、HCUを1床増やしました。</p> <p>1日平均病床利用率 (R元年度) 55.8% 整形外科の常勤医師の退職により、計画を下回りました。</p> <p>R元年7月1日からHCUを7床から8床に増床し、R2年3月末までのHCUの病床利用率は、79.9%となっています。</p> <p>小児科常勤医師については、紹介会社からの紹介や、グループ内での異動等、募集活動を続けましたが、増員に至りませんでした。</p>	<p>病棟編成 5病棟、7対1看護基準（一般） 4対1看護基準（HCU）</p> <p>新型コロナウイルス感染症疑い患者の入院受入病棟として、5階東病棟を一部専用病棟化しました。</p> <p>救急患者の積極的な受け入れをはじめ、病床利用率の向上に向け、入院医療に対応できる消化器内科等常勤医師を確保しました。 また、地域医療機関との連携強化による紹介患者の受け入れに取り組みました。</p> <p>小児科の常勤医師の増員により、小児科の診療時間内の救急医療に対応し、入院医療の体制を整備しました。</p>																															

○令和元年度実施状況調査

新型コロナウイルス感染症の流行が続く中、今後も病床利用率の改善は困難な状況にあるが、整形外科の常勤医師の退職により、病床利用率が低かったことから、整形外科をはじめとする常勤医師が不足する診療科の医師確保の取組を一層進める必要がある。

また、小児科の救急医療、入院医療体制の構築や小児二次輪番体制の参加に向け、体制の整備に努める必要がある。

●令和2年度中間報告

病床利用率の落ち込みの主な原因は、新型コロナウイルス感染症の影響の他、整形外科常勤医師の不在によるものであることから、不足する診療科の常勤医師の確保に引き続き努める必要がある。

また、小児科常勤医師を2名に増員できたことから、北和小児科二次輪番体制への参加をはじめ、休日夜間応急診療所の小児二次救急医療体制のバックアップ機能をさらに充実する必要がある。

【参考値】

R2年4月～R3年1月
1日平均病床利用率
50.3%

(令和4年3月31日)

実稼働可能病床数 210床

小児科	5床
産婦人科	19床
内科系	87床
外科系	91床
HCU	8床

病棟編成

5病棟、7対1看護基準（一般）
4対1看護基準（HCU）

・救急患者の積極的な受け入れをはじめ、病床利用率の向上に向け、入院医療に対応できる常勤医師の確保、地域医療機関との連携強化による紹介患者の受け入れに取り組みます。

なお、新型コロナウイルス感染症患者及び疑似症患者の入院受け入れのための感染症病床として、感染症患者用病床12床及び疑似症患者用病床4床を引き続き確保します。

・小児科の常勤医師のさらなる増員により、小児科の救急医療や入院医療の体制を整備し、北和小児科二次輪番へ参加します。

病院事業計画（平成27年11月改定）		令和元年度 事業報告		令和2年度 中間報告	
人員体制	人員体制については、開院当初は、1日平均想定患者数（外来300名、入院140名と仮定）による医療法規定人員数に基づき、次のとおり整えます。	(令和2年3月31日現在)		(令和2年9月30日現在)	
			常勤		常勤
		内科	4名	内科	5名
		消化器内科	0名	消化器内科	1名
		循環器内科	2名	循環器内科	2名
		外科	2名	外科	2名
		脳神経外科	0名	脳神経外科	0名
		整形外科	0名	整形外科	0名
		形成外科	1名	形成外科	4名
		小児科	1名	小児科	2名
	腎臓泌尿器科	2名	腎臓泌尿器科	1名	
	産婦人科	2名	産婦人科	2名	
	リハビリテーション科	0名	リハビリテーション科	0名	
	放射線科	1名	放射線科	0名	
	救急科	1名	救急科	1名	
	麻酔科	2名	麻酔科	2名	
	血管外科	1名	血管外科	1名	
	皮膚科	1名	皮膚科	1名	
	計	20名	計	24名	
	外来部門	39名	外来部門	40名	
	入院部門	80名	入院部門	91名	
	内) 准看護師	3名	内) 准看護師	3名	
	内) 助産師	13名	内) 助産師	13名	
	内) 保健師	0名	内) 保健師	0名	
	計	119名	計	131名	
	薬剤師	11名	薬剤師	14名	
	理学療法士	11名	理学療法士	10名	
	作業療法士	1名	作業療法士	1名	
	言語聴覚士	2名	言語聴覚士	3名	
	放射線技師	8名	放射線技師	9名	
	検査技師	9名	検査技師	10名	
	栄養士	3名	栄養士	3名	
	看護助手	17名	看護助手	16名	
	臨床工学技士	5名	臨床工学技士	7名	
	事務職員等	45名	事務職員等	43名	
	計	112名	計	116名	
	合計	251名	合計	271名	
	○医療従事者の確保について (医師の確保) 常勤医師に関しては、グループ内転勤により麻酔科1名、医局人事により腎臓泌尿器科1名、勤務希望者の募集により、救急科1名、内科1名及び産婦人科1名が入職しました。 医師事務作業補助体制を充実させたことにより、さらなる医師の業務負担軽減のための勤務環境改善の取組がなされました。 (看護師、医療スタッフ等の確保) 学生実習の積極的な受け入れ、院内保育所の運営、多様な勤務形態の導入等を行いました。 研修制度の充実や病院が必要と判断した資格取得のための支援など、専門的な知識と技術を持った人材の確保・育成に取り組みました。 リハビリテーション科については、入院患者の廃用症候群の防止、機能回復の促進により、早期の社会復帰を目指し、理学療法士の365日の稼働が可能になるよう実施を目指し、理学療法士の増員を図りましたが、理学療法士、作業療法士及び言語聴覚士の職員数が計画に及びませんでした。		○医療従事者の確保の方法について (医師の確保) 常勤医師に関しては、グループ内転勤により内科1名、医局人事により形成外科1名、勤務希望者の募集等により、消化器内科1名、小児科1名、形成外科2名が入職しました。 医師事務作業補助者を確保したことにより、さらなる医師の業務負担軽減のための勤務環境改善の取組を行いました。 (看護師、医療スタッフ等の確保) ・学生実習の積極的な受け入れ、院内保育所の運営、再就職支援のための研修、多様な勤務形態の導入等を行いました。 ・研修制度の充実や病院が必要と判断した資格取得のための支援など、専門的な知識と技術を持った人材の確保・育成に取り組みました。 ・薬剤師を3名増員させたことにより、病棟薬剤業務の充実を図りました。 ・7対1の看護基準により、深夜時間帯の病棟看護師の増員など、さらなる看護ケアの充実を図りました。 ・多職種によるチーム医療を充実させ、事務・コメディカル会議で話し合い、業務負担軽減に努めました。 ・高気圧酸素治療装置の導入により、臨床工学技士を2名増員しました。		

課題等

令和3年度 生駒市立病院 事業計画書

○令和元年度実施状況調査

常勤医師の退職により、入院、手術に対応できなくなった整形外科や、二次救急医療を充実させるため、引き続き不足する脳神経外科等の常勤医師の確保・増員を行う必要がある。

また、前年度よりも外来患者数が減少した消化器内科などの各診療科については、常勤医師を確保・増員するまでの間、病病連携・病診連携により、外来診療体制の維持に努める必要がある。

●令和2年度中間報告

救急医療・入院医療を充実させるため、引き続き不足する脳神経外科及び整形外科の常勤医師を確保する必要がある。

【参考値】

R3年1月31日現在(常勤医師数)

	常勤
内科	3名
消化器内科	1名
循環器内科	2名
外科	3名
脳神経外科	0名
整形外科	0名
形成外科	3名
小児科	2名
腎臓泌尿器科	1名
産婦人科	3名
リハビリテーション科	0名
放射線科	0名
救急科	1名
麻酔科	2名
血管外科	0名
皮膚科	1名
計	22名

R3年1月31日現在

医師 22名

看護師 132名

その他 112名

合計 266名

(令和4年3月31日)

	常勤
内科	3名
消化器内科	1名
循環器内科	2名
外科	3名
脳神経外科	1名
整形外科	1名
形成外科	2名
小児科	3名
腎臓泌尿器科	1名
産婦人科	3名
リハビリテーション科	0名
放射線科	1名
救急科	1名
麻酔科	2名
血管外科	0名
皮膚科	1名
計	25名
外来部門	42名
入院部門	98名
内) 准看護師	3名
内) 助産師	14名
内) 保健師	0名
計	140名
薬剤師	15名
理学療法士	12名
作業療法士	1名
言語聴覚士	3名
放射線技師	9名
検査技師	10名
栄養士	3名
看護助手	19名
臨床工学技士	7名
事務職員等	54名
計	133名
合計	298名

○医療従事者の確保の方法について

(医師の確保)

特に常勤医師が不足している脳神経外科、整形外科を中心に、常勤医師の確保、増員を図ります。

医師事務作業補助者を増員し、医師の業務負担の軽減を図るなど、医師の働き方改革の取組として、引き続き、勤務環境の改善を行います。

(看護師、医療スタッフ等の確保)

・引き続き、学生実習の積極的な受け入れ、院内保育所の運営、再就職支援のための研修、多様な勤務形態の導入等を行います。
 ・研修制度の充実や病院が必要と判断した資格取得のための支援など、専門的な知識と技術を持った人材の確保・育成に継続して取り組みます。

・薬剤師の増員により、引き続き、病棟薬剤業務の充実を図ります。
 ・7対1の看護基準により、さらなる看護ケアの充実を図ります。

病院事業計画（平成27年11月改定）		令和元年度 事業報告		令和2年度 中間報告			
患者数	1日平均患者数			1日平均患者数			
		入院	外来		入院	外来	
	4月	126.0 人	206.9 人	4月	97.3 人	154.0 人	
	5月	135.8 人	207.6 人	5月	94.3 人	147.0 人	
	6月	135.9 人	224.9 人	6月	87.9 人	182.9 人	
	7月	134.2 人	210.6 人	7月	99.8 人	204.2 人	
	8月	122.2 人	205.0 人	8月	116.7 人	201.9 人	
	9月	106.1 人	199.4 人	9月	104.4 人	213.3 人	
	10月	111.5 人	217.8 人	上半期平均	100.1 人	183.9 人	
	11月	112.4 人	230.8 人				
	12月	94.2 人	213.8 人				
	1月	104.5 人	183.1 人				
	2月	117.2 人	176.2 人				
	3月	105.7 人	162.4 人				
	年間平均	117.1 人	203.2 人				
	達成率	73.8 %	89.0 %				
		<p>○入院・外来患者数の増加に向けた取組 地域医療機関との連携推進のほか、市民や地域の医療機関へ、市立病院の医療に関する必要な情報をそれぞれ積極的に提供しました。</p> <p>（市民への周知の取組） ・6月から院内に広報委員会（総務課等各部門から委員各1名計7名を選出し、月1回会議開催）を立上げ、広報活動の強化のための体制づくりを図りました。</p> <p>・広報委員によるホームページ、ブログ等のチェック、随時更新の実施</p> <p>・病院だよりの発行（令和元年8月以降毎月1日発行）</p> <p>・医療講演会 72講座 参加者 2,126名 （H30年度：50講座、2,180名参加）</p> <p>（地域の医療機関への周知の取組） ・地域の医療機関への情報提供等訪問回数 2,648件（H30年度：387件） H30年度までは、地域の医療機関への情報提供について、病院だより等を郵送していましたが、直接訪問へと改めたため、訪問回数が増加しました。</p> <p>・病診連携懇話会は、内容等の検討に時間を要したため、開催に至りませんでした。</p>			<p>○入院・外来患者数の増加に向けた取組 年度当初から新型コロナウイルス感染症の影響や、整形外科常勤医師の不足により、入院・外来ともに患者数が伸び悩んでいましたが、地域医療機関との連携推進のほか、市民や地域の医療機関へ、市立病院の医療に関する必要な情報をそれぞれ積極的に提供し、徐々に患者数も増えてきました。</p> <p>（市民への周知の取組） ・広報委員によるホームページ、ブログ等のチェック、随時更新の実施</p> <p>・ツイッターの運用に加え、令和2年5月からLINE公式アカウントを開始しました。 令和2年9月末現在 登録者数 344人</p> <p>（LINE公式アカウントの掲載例） ・新型コロナウイルス感染症対策 ・健診・人間ドックについて ・医療講演のお知らせ ・入院患者への面会制限について ・お見舞いメールの運用 ・インフルエンザワクチン予防接種について</p> <p>・病院だよりの発行（令和元年8月以降毎月1日発行）</p> <p>・医療講演会 22講座 参加者 243名 （内オンライン開催 13講座 参加者 47名） ・拡大医療講演会を北地区において、5月17日開催予定で自治会関係者等と調整しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、延期となりました。</p> <p>（地域の医療機関への周知の取組） ・地域の医療機関への情報提供等訪問回数 1,548件（令和元年度上半期 802件）、延べ255施設 令和元年8月以降、地域医療機関への情報提供について、従来郵送していた診療情報提供書と病院だよりの配布を、郵送から直接訪問へと変更したため、件数が増加しました。</p> <p>・病診連携懇話会は新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度の開催を見送りました。</p>		

○令和元年度実施状況調査

入院患者数及び外来患者数ともに計画を下回っており、常勤医師の確保に努めるとともに、地域の医療機関との病病連携及び病診連携をより一層進める必要がある。

●令和2年度中間報告

入院患者数及び外来患者数ともに計画を下回っているが、新型コロナウイルス感染症の対応を強化するために、不足する常勤医師の確保に努めるとともに、地域の医療機関との病病連携及び病診連携をより一層進める必要がある。

【参考値】

R2年4月～R3年1月

1日平均患者数

入院 105.6人

外来 198.4人

1日平均患者数

	入院		外来	
4月	125.0	人	229.0	人
5月	125.0	人	225.0	人
6月	125.0	人	227.0	人
7月	130.0	人	243.0	人
8月	130.0	人	249.0	人
9月	130.0	人	244.0	人
10月	137.0	人	228.0	人
11月	132.0	人	228.0	人
12月	140.0	人	243.0	人
1月	140.0	人	247.0	人
2月	140.0	人	241.0	人
3月	140.0	人	251.0	人
年間平均	132.8	人	238.0	人

○入院・外来患者数の増加に向けた取組

入院医療に対応できる常勤医師の確保、救急を含む外来診療体制の維持のための非常勤医師の確保、地域医療機関との病病・病診連携の推進及び救急患者の確実な受け入れのほか、積極的に広報活動や医療講演会を実施することにより、入院・外来患者数の増加を目指します。

新型コロナウイルス感染症対策として、引き続き、帰国者・接触者外来及び発熱外来を実施します。また、市民へのワクチン接種も実施します。

(市民への周知の取組)

- ・院内の広報委員会による広報活動の強化
- ・ホームページ、LINE公式アカウント、病院だより等による広報活動の推進
- ・医療講演会（自治会等各種団体への出張講座含む）の推進

(地域の医療機関への周知の取組)

- ・地域医療連携室による地域の医療機関への積極的な情報提供を推進します。
- ・病診連携懇話会を開催し、症例検討会や市立病院の医療連携実績の報告など地域の開業医との「顔の見える関係性」を構築します。

病院事業計画（平成27年11月改定）	令和元年度 事業報告	令和2年度 中間報告
<p>1病院の基本方針 新病院のコンセプト ○質の高い医療の提供 生駒市の地域医療の問題点を踏まえ、政策的に実施すべき医療事業を確実に実施し、市民満足度の高い、質の高い医療を提供する。</p>	<p>安全で質の高い医療サービスの提供を目指し、最新の設備を配置し、入院診療計画策定時から多職種が参加して最適な治療方法を策定するなど、チーム医療を実施しました。</p> <p>腹腔鏡下手術等、患者の身体への負担が少ない低侵襲手術に取り組みました。</p> <p>また、ダ・ヴィンチ手術については、地域の医療機関からの紹介患者が少なかったため、件数が伸びませんでした。</p> <p>患者の意見から、医療やサービス等が適切であるかどうかを検討し、患者の意見を反映した医療サービスの提供に取り組みました。</p> <p>○医療サービスについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手術件数（全体） 1,262 件 ・分娩件数 143件 ・産科交流会 12/21開催 155名参加 (H30年度：230名参加) ・医療機器等の整備 (導入機器) <ul style="list-style-type: none"> ・手術用顕微鏡 ・整形外科手術台 ・関節鏡カメラシステム ・乳房X線撮影装置、高気圧酸素治療装置を設置 ・高圧蒸気滅菌器増設は手術件数が予定より伸びなかったことにより、来年度以降増設する予定 	<p>安全で質の高い医療サービスの提供を目指し、最新の設備を配置し、入院診療計画策定時から多職種が参加して最適な治療方法を策定するなど、チーム医療を実施しました。</p> <p>DPC対象病院として、診療の標準化、透明化及び診療の質の向上を図りました。</p> <p>腹腔鏡下手術、胸腔鏡下手術、ダ・ヴィンチ手術等患者の身体への負担が少ない低侵襲手術に取り組みました。</p> <p>また、患者の意見を可能な限り尊重したうえで、患者の思いに寄り添った医療サービスの提供を目指しました。</p> <p>○医療サービスについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手術件数（全体） 645件 <ul style="list-style-type: none"> 外科 148件 形成外科 362件 腎臓泌尿器科 49件 産婦人科 62件 放射線科 3件 血管外科 21件 ・分娩件数 82件 ・産科交流会 新型コロナウイルス感染症の影響により上半期は延期 ・市の産後ケア事業へ参加しました。 サポート人数 1人 (院内において出産直後にショートステイを利用) ・医療機器等の整備 (導入機器) 人工呼吸器 3台

課題等	令和3年度 生駒市立病院 事業計画書																		
<p>○令和元年度実施状況調査 常勤医師の退職により、整形外科の手術件数が大幅に減っており、今後もより一層地域の医療機関との病病連携を進め、患者が困ることのないように、医療体制の整備に努める必要がある。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の流行が続くなか、徹底した感染管理に努めながら、質の高い医療提供体制を継続して整備する必要がある。</p> <p>●令和2年度中間報告 整形外科において、手術対応が可能な常勤医師を確保する必要がある。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の流行が続く中、徹底した感染管理に努めながら、質の高い医療提供体制を継続して整備する必要がある。</p> <p>【参考値】 R2年4月～R3年1月 手術件数 1,137件 分娩件数 138件</p>	<p>安全で質の高い医療サービスの提供を目指し、最新の設備を配置し、豊富なキャリアを積んだ医師や看護師、コメディカルスタッフがチーム医療で、患者にとって最適な治療・ケアを行います。</p> <p>DPC対象病院として、診療の標準化、透明化及び診療の質の向上を図ります。</p> <p>引き続き、腹腔鏡下手術、胸腔鏡下手術やダ・ヴィンチ手術等患者の身体への負担が少ない低侵襲手術に取り組みます。</p> <p>患者アンケートやご意見箱の内容を反映した心温まる医療サービスの提供を目指します。</p> <p>○医療サービスについて</p> <table border="0"> <tr> <td>・手術件数（全体）</td> <td>1,360 件</td> </tr> <tr> <td> 外科</td> <td>390 件</td> </tr> <tr> <td> 形成外科</td> <td>690 件</td> </tr> <tr> <td> 腎臓泌尿器科</td> <td>90 件</td> </tr> <tr> <td> 産婦人科</td> <td>190 件</td> </tr> <tr> <td>・分娩件数</td> <td>160 件</td> </tr> </table> <p>・産科交流会 母子同士の交流、育児情報の提供等、産後のサポートを行います。</p> <p>・市の産後ケア事業への参加を継続します。</p> <p>・医療機器等の整備 必要性、採算性などを検討の上、高度医療機器の整備を行います。</p> <p>(導入予定機器)</p> <table border="0"> <tr> <td>・超音波診断装置</td> <td>Aplio</td> </tr> <tr> <td>・セントラルモニタ</td> <td>CNS-6201</td> </tr> <tr> <td>・ベッドサイドモニタ</td> <td>PVM-4761</td> </tr> </table>	・手術件数（全体）	1,360 件	外科	390 件	形成外科	690 件	腎臓泌尿器科	90 件	産婦人科	190 件	・分娩件数	160 件	・超音波診断装置	Aplio	・セントラルモニタ	CNS-6201	・ベッドサイドモニタ	PVM-4761
・手術件数（全体）	1,360 件																		
外科	390 件																		
形成外科	690 件																		
腎臓泌尿器科	90 件																		
産婦人科	190 件																		
・分娩件数	160 件																		
・超音波診断装置	Aplio																		
・セントラルモニタ	CNS-6201																		
・ベッドサイドモニタ	PVM-4761																		

病院事業計画（平成27年11月改定）	令和元年度 事業報告	令和2年度 中間報告
	<p>主要疾病（4疾病）に係る医療体制 がん 地域がん診療連携拠点病院（近畿大学奈良病院・奈良県総合医療センター）と連携のもと精密検査や病理診断、手術療法、化学療法によるがん治療体制を確保している。</p> <p>脳卒中 近畿大学奈良病院、奈良県総合医療センター等との連携のもと、発病後、できる限り早期に検査・診断・治療できる体制を確保している。</p> <p>急性心筋梗塞 近畿大学奈良病院と連携のもと、緊急の心臓カテーテル検査・PCIが24時間365日可能な体制を確保している。</p> <p>糖尿病 内科、循環器内科、形成外科及び血管外科において、かかりつけ医との連携のもと、糖尿病低血糖症等急性増悪時の治療、慢性合併症の治療を実施している。</p> <p>○患者満足度の向上について ・入院・外来患者アンケート調査の実施（実施期間H31.3月～R1.7月） 患者満足度（総合評価の評点） 入院88.1点 外来78.8点</p> <p>・退院時に市立病院独自で患者アンケート調査を実施しました。（回答総数868件）</p> <p>・ご意見箱等の内容に対応 ご意見箱等の内容に対して、速やかに対応するよう努めました。 アンケートの調査結果等の公表方法についての検討に時間を要したため、公表に至りませんでした。</p> <p>・院内スタッフ対象の接遇研修の実施 4/8 新人職員向け接遇研修</p> <p>・院内における接遇委員会を月1回開催（看護部では月1回服装チェックなどを実施） 毎日の朝礼にて、事務職員対象に接遇向上の周知</p>	<p>主要疾病（4疾病）に係る医療体制 がん 地域がん診療連携拠点病院（近畿大学奈良病院・奈良県総合医療センター）と連携のもと精密検査や病理診断、手術療法、化学療法によるがん治療体制を確保しています。</p> <p>脳卒中 近畿大学奈良病院、奈良県総合医療センター等との連携のもと、発病後、できる限り早期に検査・診断・治療できる体制を確保しています。</p> <p>急性心筋梗塞 奈良県総合医療センターと連携のもと、緊急の心臓カテーテル検査・PCIが24時間365日可能な体制を確保しています。</p> <p>糖尿病 内科、循環器内科、形成外科及び血管外科において、かかりつけ医との連携のもと、糖尿病低血糖症等急性増悪時の治療、慢性合併症の治療を実施しています。</p> <p>○患者満足度の向上について ・入院・外来患者アンケート調査を11、12月に実施予定</p> <p>・退院時に市立病院独自で患者アンケート調査を実施しました。（回答総数 496件）</p> <p>・ご意見箱の内容に対応 患者アンケート及びご意見箱等の内容に対して、迅速に対応するとともに、下半期にホームページ・病院だより等で公表し、生駒市立病院管理運営協議会へ報告する予定です。</p> <p>・院内スタッフ対象の接遇研修の実施 4/2 新入職員向け接遇研修</p> <p>・院内における接遇委員会を月1回開催（看護部では月1回服装チェックなどを実施） 毎日の朝礼にて、事務職員対象に接遇向上の周知</p>

課題等	令和3年度 生駒市立病院 事業計画書
<p>○令和元年度実施状況調査 外来患者アンケートにおいて、医師の診察内容等は、前回調査や他病院と比べて評価が高かったものの、待ち時間への配慮などにおいて評価が低かったことから、今後、待ち時間短縮に向け取り組む必要がある。</p>	<p>主要疾病（4疾病）に係る医療体制 がん 地域がん診療連携拠点病院（近畿大学奈良病院）と連携のもと精密検査や病理診断、手術療法、化学療法によるがん治療体制の充実を図ります。</p> <p>脳卒中 近畿大学奈良病院、奈良県総合医療センター等との連携のもと、発病後、できる限り早期に検査・診断・治療できる体制の充実を図ります。</p> <p>急性心筋梗塞 奈良県総合医療センターと連携のもと、緊急の心臓カテーテル検査・PCIが24時間365日可能な体制の充実を図ります。</p> <p>糖尿病 かかりつけ医との連携のもと、糖尿病低血糖症等急性増悪時の治療、慢性合併症の治療の充実を図ります。</p> <p>○患者満足度の向上について ・入院・外来患者アンケート調査の実施 <u>1階において、待ち時間が短縮できるように、引き続き案内係を配置し、窓口業務が円滑に行えるよう努めます。</u></p> <p>・ご意見箱の内容に対応 アンケート調査結果やご意見箱の意見などについて、ホームページ・病院だより等で公表し、市立病院管理運営協議会へ報告します。</p> <p>・院内スタッフ対象の接遇研修の実施 新人職員を対象とした接遇研修をはじめ院内スタッフ対象の接遇研修を充実します。</p> <p>・院内における接遇委員会を定期的に開催し、接遇の向上を図ります。</p>

病院事業計画（平成27年11月改定）	令和元年度 事業報告	令和2年度 中間報告
<p>医療における安全管理に対する取組</p> <p>●安全管理マニュアルの策定について 各部署からリスクマネージャーを選任し、院内にリスクマネジメント委員会を設置します。また、リスクマネジメント委員会は隔週開催し、医療安全管理者を中心に報告事例をもとにマニュアル化したうえ便覧を作成、各部署に配布し情報を共有します。</p> <p>●医療事故に対する対応について 発生した医療事故については、関係者から医療安全管理者へ迅速に報告し、その報告をもとに調査を行い、MRM（メディカルリスクマネジメント）委員会で分析したうえで、医療安全推進委員会で討議し対応の決定を行ないます。</p> <p>●院内感染対策について 感染防止委員会・リンクナース委員会をそれぞれ定期的に開催し、感染症発生の監視、院内感染の監視、職員の管理（予防接種等）、事故調査及び防止策の検討、職員に対する啓蒙と教育など、感染防止に対する取り組みを行ないます。</p>	<p>（医療安全管理体制について） 市民・患者に信頼される安全で安心できる病院を目指して、医療安全管理委員会を中心に、インシデント・アクシデントに関する事例の分析、改善方法の院内共有、医療安全研修の実施により、事故防止の要点や対策について職員に周知徹底することで医療事故の防止と医療安全対策の強化に努めました。 また、医療安全に関する市民への情報公開の方法等については、発行予定の病院年報等において、インシデント・アクシデント件数の包括的公表を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療安全管理委員会、医療安全カンファレンスについて計画どおり実施しました。 ・医療安全勉強会 <ul style="list-style-type: none"> ・7/31 8/5 8/7 8/9 8/14 合計239名参加 ・11/13 11/14 11/15 合計230名参加 <p>（医療事故に対する対応について） 医療事故発生に備えて、日常から迅速・的確に対応できるよう体制を整えています。</p> <p>（院内感染対策について） 院内の全ての人を院内感染から守るため継続的に院内感染防止活動に取り組みました。 ・院内感染対策委員会、ICT合同カンファレンス、ICTラウンドについて計画どおり実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染勉強会 <ul style="list-style-type: none"> ・7/10 82名参加、7/11 57名参加 7/12 58名参加 合計197名参加 ・11/13 79名参加、11/14 88名参加 11/15 60名参加 合計 227名参加 <p>（院内感染対策に係る地域医療連携）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同カンファレンス <ul style="list-style-type: none"> 6/11 9/10 12/10 2/18 開催 奈良県総合医療センターにて <p>（新型コロナウイルス感染症対策会議）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良県主催 新型コロナウイルス感染症に関する連絡会 <ul style="list-style-type: none"> 2/17 3/16 ・奈良県主催 新型コロナウイルス感染症小児科連絡会 2/21 ・奈良県郡山保健所主催 院内感染ネットワーク研修会 3/4 <p>3/9開催の院内感染対策委員会において、3/19から、1階外来で有熱エリアを分けし5階東病棟では、疑似症患者エリアをビニールカーテンにより仕切った。</p>	<p>（医療安全管理体制について） 市民・患者に信頼される安全で安心できる病院を目指して、医療安全管理委員会を中心に、インシデント・アクシデントに関する事例の分析、改善方法の院内共有、医療安全研修を実施しました。 さらに、事故防止の要点や対策について職員に周知徹底することで、医療事故の防止と医療安全対策の強化に努めました。 また、医療安全に関する市民への情報公開の方法等については、病院だよりにおいて、インシデント件数の包括的公表を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療安全管理委員会、医療安全カンファレンスについて計画どおり実施しました。 ・医療安全勉強会 <ul style="list-style-type: none"> 7/29 80名参加、 7/30 89名参加 7/31 78名参加 合計 247名参加 <p>（医療事故に対する対応について） 医療事故発生に備えて、日常から迅速・的確に対応できるよう体制整備に努めています。</p> <p>（院内感染対策について） 院内の全ての人を院内感染から守るため継続的に院内感染防止活動に取り組みました。 ・院内感染対策委員会、ICT合同カンファレンス、ICTラウンドについて計画どおり実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染勉強会 <ul style="list-style-type: none"> 7/29 80名参加、 7/30 89名参加 7/31 78名参加 合計 247名参加 <p>（院内感染対策に係る地域医療連携）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同カンファレンス <ul style="list-style-type: none"> 6/1 県総合医療センターで開催 9/29 WEB開催 <p>（新型コロナウイルス感染症対策）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常勤医師を含む全職員への院内感染対策を徹底しました。（常時マスク着用の徹底、PCR検体採取時のマスク、ゴーグル、ガウン等个人防护具の装着の徹底） ・感染対策用として、マスク・消毒液等計画的に備蓄を行いました。 備蓄数(9月末) マスク 12,000枚、消毒液 100個等 ・4/14から5階東病棟において、一部分ゾーニングをして、疑似症患者の受け入れを開始しました。 ・4/27から5/31までは5階東病棟を全部休止し、疑似症患者の受け入れに当たりませんでした。 ・6/1以降の感染小康期には、5階東病棟を休棟から一部分のゾーニングに戻して、疑似症患者を受け入れました。 上半期疑似症患者受入人数 157人 ・新型コロナウイルス感染症に関する今後の対応等の市中等医療機関との意見交換会参加 <ul style="list-style-type: none"> 4/28、5/27 ・令和2年度上半期検査件数 PCR検査数 919件、抗原検査数 122件

課題等	令和3年度 生駒市立病院 事業計画書
<p>○令和元年度実施状況調査 今後の新型コロナウイルス感染症の感染拡大に備えて、院内における感染管理をより一層徹底するとともに、引き続き、奈良県をはじめとする関係機関と情報交換等しながら、目まぐるしく変化する新型コロナウイルス感染症の状況に臨機応変に対応する必要があります。</p> <p>●令和2年度中間報告 今後の新型コロナウイルス感染症の感染拡大に備えて、院内における感染管理をより一層徹底するとともに、引き続き、奈良県をはじめとする関係機関と情報交換等しながら、目まぐるしく変化する新型コロナウイルス感染症の状況に臨機応変に対応する必要があります。</p>	<p>(医療安全管理体制について) 市民・患者に信頼される安全で安心できる病院を目指して、医療安全管理委員会を中心に、インシデント・アクシデントに関する事例の分析、改善方法の院内共有、医療安全研修の実施により、事故防止の要点や対策について職員に周知徹底することで、医療事故の防止と医療安全対策の強化に努めます。また、医療安全に関する情報公開の方法等については、病院年報において、インシデント・アクシデントの包括的公表を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療安全管理委員会（毎月1回開催） ・医療安全カンファレンス（毎週1回開催） ・医療安全勉強会（年2回開催） <p>(医療事故に対する対応について) 医療事故発生時は、引き続き、次の点について徹底し、院内の総力を挙げて迅速・的確に対応します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者の安全確保と救命処置を最優先します。 ・病院内における事故等の報告を速やかに行います。 ・患者・家族への事実の説明を誠実かつ速やかに行います。 ・重大な医療事故の場合は、保健所等関係機関へ速やかに報告・届出を行います。 ・事故の再発防止策を早期に検討し、職員に周知徹底します。 <p>(院内感染対策について) 院内の全ての人を院内感染から守るため、継続的に院内感染防止活動に取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院内感染対策委員会（毎月1回開催） ・ICT合同カンファレンス（偶数月参加） ・ICTラウンド（毎週1回開催） ・感染勉強会（年2回開催） ・院内感染対策に係る地域医療連携（合同カンファレンス 年2回参加） ・感染対策用として、マスク・消毒液等計画的に備蓄を行います。 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>新型コロナウイルス感染症の感染拡大に備えて、引き続き、奈良県や市、医師会をはじめとする関係機関と情報交換しながら、PCR検査体制、新型コロナウイルス感染症患者の入院受入体制及びワクチン接種体制など、目まぐるしく変化する新型コロナウイルス感染症の状況に臨機応変に対応します。</u>

病院事業計画（平成27年11月改定）	令和元年度 事業報告	令和2年度 中間報告
<p>1病院の基本方針 新病院のコンセプト ○地域完結型の医療体制構築への寄与 地域の病院がそれぞれの機能を分担し、かかりつけ医との連携も含めた地域完結型の医療を目指し、また、患者を中心とした継続性のある医療を提供するため、前方連携と後方連携を考慮し、周辺の地域医療機関との病診連携や病病連携を積極的に推進する。</p> <p>地域医療の支援に対する取組 ●在宅支援機能の充実 地域連携バスや退院支援チーム等の取組みにより、在宅支援診療所との連携を図りながら、在宅への移行支援を行ないます。また、急性期医療の患者を対象とした在宅医療システムを検討実施します。具体的には、在宅患者の増悪事に対応する処置、入院加療用として5床を確保します。</p> <p>●開放型病床の設置 地域の開業医と連携することにより、診療の一貫性が実現できることから、医師会と病床数や運営方法を協議の上、開放型病床を設置します。</p> <p>●地域医療機関への医療教育プログラムの提供 次の取組を検討し、段階的に実施します。 ・診療科による他医療機関との合同症例検討会の実施 ・院内外の医療従事者に対するTCLS※又はAHABLS/AHAACLトレーニング（ACLSに相当する指定管理者のプログラム）の継続の実施（2年に1回程度） ・医療機関、救急隊との定期勉強会の実施（年2回程度）</p> <p>※TCLS 二次医療機関で行う救命救急における心肺蘇生法で、アメリカ心臓協会が認定しているコースであるACLSのガイドラインに基づいた実際の医療機器を使用したシミュレーション実習のこと。</p>	<p>地域の医療機関との病診・病病連携を積極的に推進するとともに、介護・福祉施設との密接な連携を図ることで、地域医療の充実を図りました。</p> <p>○在宅支援機能の充実について 増加する在宅患者やそのかかりつけ医をサポートする後方支援病院としての役割を果たすため、医療連携登録医や協力医療機関連携施設等との連携を強化し、在宅患者の入院加療用病床の確保など、在宅患者等の増悪時の積極的な受け入れを行いました。</p> <p>（令和2年3月31日時点） ・医療連携登録医 66施設・81名 ・協力医療機関連携施設 60施設 ・地域連携バスは、現体制において、既に、登録医等当院に患者を紹介された開業医の先生方との間で、紹介患者の状況や診療計画など情報を共有していることから、本制度の導入には至りませんでした。 ・入退院支援チームは実施 ・生駒市医療介護連携ネットワーク協議会の委員として院長が参加 ・生駒市医療介護連携ネットワーク協議会在宅医療介護推進部会及び入退院調整マニュアル運用ワーキンググループの委員として地域医療連携室の職員が参加</p> <p>○開放型病床の設置について 開放型病床は、現体制において、既に、登録医等当院に患者を紹介された開業医の先生方が、紹介患者のその後の治療経過などの情報を把握するために来院されていることから、本制度の導入には至りませんでした。</p> <p>○地域医療機関への医療教育プログラムの提供について 地域医療従事者の資質向上を目的とした医療教育プログラムについて、検討を重ね、プログラムの充実を図りました。 また、医療教育プログラムへの地域医療従事者の参加を促進するために、医療連携登録医をはじめ、地域の病院、診療所に対し案内するなどPRや周知を強化しました。 ・医療教育プログラム 新生児蘇生法講習会（NCPR） 6/23 24名参加 （院内5名、院外19名） 医療メディエーター研修 9/7～9/8 24名参加 （院内5名、院外19名） ALS0-Japan学術集会 10/13 奈良春日野国際フォーラム ※台風接近に伴い開催中止 ・病診連携懇話会は、内容等の検討に時間を要したため、開催に至りませんでした。</p>	<p>地域の医療機関との病診・病病連携を積極的に推進するとともに、介護・福祉施設との密接な連携を図ることで、地域医療の充実を図りました。</p> <p>○在宅支援機能の充実について 増加する在宅患者やそのかかりつけ医をサポートする後方支援病院としての役割を果たすため、医療連携登録医や協力医療機関連携施設等との連携を強化し、在宅患者の入院加療用病床の確保など、在宅患者等の増悪時の積極的な受け入れを行いました。 入退院支援チームの推進、生駒市の入退院調整マニュアルの積極的な活用により、市内等の医療機関や介護事業者等との連絡調整と情報共有による円滑な入退院の推進を図りました。 地域医療連携室において、紹介元の開業医が、紹介患者の電子カルテを閲覧できるスペースを設け、病診連携を推進しました。</p> <p>（令和2年9月30日時点） ・医療連携登録医 66施設・81名 ・協力医療機関連携施設 61施設</p> <p>・生駒市医療介護連携ネットワーク協議会 生駒市医療介護連携ネットワーク協議会は、新型コロナウイルス感染症の影響により延期。在宅医療介護推進部会には、地域医療連携室の職員が会員として参加</p> <p>○開放型病床の設置について 開放型病床については、現時点では医療連携登録医からのニーズがなく、紹介元の開業医が、地域医療連携室において、紹介患者の電子カルテを閲覧し、患者データの共有ができていないことから、導入には至りませんでした。</p> <p>・医療連携登録医へのアンケート調査については、下半期に実施予定</p> <p>○地域医療機関への医療教育プログラムの提供について 地域医療従事者の資質向上を目的とした研修会を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今年度は中止しました。</p> <p>・医療教育プログラム 新生児蘇生法講習会（NCPR）、周産期救急講習会（ALS0）は新型コロナウイルス感染症により、今年度は中止</p> <p>・病診連携懇話会は新型コロナウイルス感染症のため今年度は開催せず。</p>

課題等	令和3年度 生駒市立病院 事業計画書
<p>○令和元年度実施状況調査 在宅支援機能をさらに充実させるために、市内の医療連携登録医を増やしていくことで、地域の医療機関との連携強化を図る必要がある。</p> <p>●令和2年度中間報告 在宅支援機能をさらに充実させるためには、市内の医療連携登録医を増やすことにより、地域の医療機関との連携強化をより一層図る必要がある。</p>	<p>地域の医療機関との病診・病病連携を積極的に推進するとともに、介護・福祉施設との密接な連携を図ることで、地域医療の充実に貢献します。</p> <p>○在宅支援機能の充実について 増加する在宅患者やそのかかりつけ医をサポートする後方支援病院としての役割を果たすため、<u>医療連携登録医や協力医療機関連携施設等との連携を強化し、在宅患者の入院加療用病床の確保</u>など、在宅患者等の増悪時の積極的な受け入れを行います。 入退院支援チームの推進、生駒市の入退院調整マニュアルの積極的な活用により、市内等の医療機関や介護事業者等との連絡調整と情報共有による円滑な入退院の推進を図ります。 地域医療連携室において、引き続き、紹介元の開業医が、紹介患者の電子カルテを閲覧できるスペースを設け、病診連携を推進します。</p> <p>○地域医療機関への医療教育プログラムの提供について 地域医療従事者の資質向上を目的とした各種症例検討会、講演会、研修会を実施します。また、医療教育プログラムへの地域医療従事者の参加を促進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療教育プログラム 新生児蘇生講習法(NCPR)、周産期救急講習会(ALSO)への参加 ・病診連携懇話会を開催します。

病院事業計画（平成27年11月改定）	令和元年度 事業報告	令和2年度 中間報告																								
<p>●周辺の他の医療機関との連携 新病院開院後は、医師会に加入し、医療機器の相互利用やグループ内専門医による研究会、合同カンファレンスの開催、医師会枠としての開放病床の取組を進めます。 また、連携に賛同された医療機関を写真入りで院内に公開する「かかりつけ医コーナー」を設置し、患者が自由に情報収集でき、希望に応じて紹介状の作成、予約確認等を行い案内するシステムを構築します。 また、地域で必要な医療を確保し、地域の医療機関との連携等を図る観点から、医師会の協力のもと、地域の診療所や病院を支援する医療機関として、将来的には「地域医療支援病院」の承認を目指します。</p> <p>●地域医療連携推進のための組織・体制及び方法の整備 院内に地域医療連携室を設置し、専任職員（看護師・MSW・介護職員等で構成）を配置します。 この専任職員が地元医療機関を訪問することによって、地元医療機関のニーズに応え、相互の紹介をはじめ診療情報等の提供を行なっています。 また、今後、さらなる地域医療連携を推進するため、医師会等とも十分に協議しながら地域共有型電子カルテネットワークシステムの構築に向けての検討を行います。</p>	<p>○周辺の他の医療機関との連携について 医師会への入会を目指し、毎月、市立病院の医療機能等の情報提供を続けました。 また、地域の診療所との地域医療連携の推進のため、医療機器のオープン利用を引き続き実施しました。 市が開催する市内等病院との意見交換会に参加し、「顔の見える関係性」を深めるとともに、会議の場において、積極的に情報提供をしました。</p> <p>・医療機器のオープン利用件数（年間）</p> <table border="1" data-bbox="494 510 973 622"> <tr> <td>MRI</td> <td>254件</td> <td>(全利用件数2,286件)</td> </tr> <tr> <td>CT</td> <td>91件</td> <td>(全利用件数6,407件)</td> </tr> <tr> <td>内視鏡</td> <td>11件</td> <td>(全利用件数1,961件)</td> </tr> <tr> <td>エコー</td> <td>25件</td> <td>(全利用件数4,171件)</td> </tr> </table> <p>医療連携登録医及び協力医療機関連携施設の登録数の拡大を目指し、地域医療連携室の職員が地元医療機関を訪問し、登録のメリットをPRしました。</p> <p>(令和2年3月31日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療連携登録医 66施設・81名 ・協力医療機関連携施設 60施設 ・地域の医療機関への情報提供等訪問回数 2,648件(H30年度：387件) <p>H30年度までは、地域の医療機関への情報提供について、病院だより等を郵送していましたが、直接訪問へと改めたため、訪問回数が増加しました。</p> <p>地域の医療機関との病病・病診連携及び協力体制を重視し、紹介された患者の受け入れに努めました。 また、病状の安定した患者の逆紹介を促進するため、紹介を受けた患者については紹介元へ逆紹介することに加え、紹介を受けていない患者についても、地域医療連携室を通して、患者と相談しながら、患者の住居の周辺の医療機関などへの逆紹介に努めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紹介率 33.3% ・逆紹介率 18.3% <p>○地域医療連携推進のための組織・体制及び方法等について 地域医療連携室の専任職員が地元医療機関を訪問することによって、地元医療機関のニーズを把握し、診療情報等の提供を行いました。 地域共有型電子カルテネットワークシステムについては、「やまと西和ネット」へ参加しました。実際の運用を令和元年10月から開始しました。 また、市が取り組む在宅医療・介護連携推進事業に参画することにより、地域の医療機関や介護事業者など関係者間の連携強化を図りました。</p>	MRI	254件	(全利用件数2,286件)	CT	91件	(全利用件数6,407件)	内視鏡	11件	(全利用件数1,961件)	エコー	25件	(全利用件数4,171件)	<p>○周辺の他の医療機関との連携について 医師会への入会を目指し、毎月、市立病院の医療機能等の情報提供を続けました。 また、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、地域の診療所との地域医療連携の推進のため、医療機器の共同利用を実施しました。</p> <p>市が開催する市内等医療機関と新型コロナウイルス感染症に関する今後の対応等の意見交換会に参加しました。 4/28、5/27</p> <p>・医療機器の共同利用件数（4～9月）</p> <table border="1" data-bbox="989 566 1463 678"> <tr> <td>MRI</td> <td>82件</td> <td>(全利用件数1,017件)</td> </tr> <tr> <td>CT</td> <td>34件</td> <td>(全利用件数3,262件)</td> </tr> <tr> <td>内視鏡</td> <td>1件</td> <td>(全利用件数 832件)</td> </tr> <tr> <td>エコー</td> <td>10件</td> <td>(全利用件数1,932件)</td> </tr> </table> <p>医療連携登録医及び協力医療機関連携施設の登録数の拡大を目指し、地域医療連携室の職員が地元医療機関を訪問し、登録のメリットを積極的にPRしました。</p> <p>(令和2年9月30日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療連携登録医 66施設・81名 ・協力医療機関連携施設 61施設 ・地域の医療機関への情報提供等訪問回数 1,548件(令和元年度上半期 802件)、延べ255施設 <p>令和元年8月以降、地域医療機関への情報提供について、従来郵送していた診療情報提供書と病院だよりの配布を郵送から直接訪問へと変更したため、件数が増加しました。</p> <p>地域の医療機関との病病・病診連携及び協力体制を重視し、紹介された患者の受け入れに努めました。 また、病状の安定した患者の逆紹介を促進するため、紹介を受けた患者については紹介元へ逆紹介することに加え、紹介を受けていない患者についても、地域医療連携室を通して、患者と相談しながら、患者の住居の周辺の医療機関などへの逆紹介に努めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紹介率 34.8% ・逆紹介率 15.2% <p>○地域医療連携推進のための組織・体制及び方法等について 地域医療連携室の専任職員を配置し、紹介・逆紹介及び入院調整を推進しました。 地域医療連携室の専任職員が地元医療機関を訪問することによって、地元医療機関のニーズを把握し、診療情報等の提供を行いました。 やまと西和ネットに参加し、近畿大学奈良病院をはじめ同ネット参加医療機関及び介護事業所との患者情報の共有等連携に努めています。 また、市が取り組む在宅医療・介護連携推進事業に参画することにより、地域の医療機関や介護事業者など関係者間の連携強化を図りました。</p>	MRI	82件	(全利用件数1,017件)	CT	34件	(全利用件数3,262件)	内視鏡	1件	(全利用件数 832件)	エコー	10件	(全利用件数1,932件)
MRI	254件	(全利用件数2,286件)																								
CT	91件	(全利用件数6,407件)																								
内視鏡	11件	(全利用件数1,961件)																								
エコー	25件	(全利用件数4,171件)																								
MRI	82件	(全利用件数1,017件)																								
CT	34件	(全利用件数3,262件)																								
内視鏡	1件	(全利用件数 832件)																								
エコー	10件	(全利用件数1,932件)																								

課題等

令和3年度 生駒市立病院 事業計画書

○令和元年度実施状況調査
 地域医療機関との病病・病診連携の推進及び紹介患者の増加のためには、医師会との連携は不可欠であり、引き続き入会審査に対応していく必要がある。

●令和2年度中間報告
 医師会との連携は不可欠であり、引き続き入会審査に対応する必要があるため、地域医療機関との病病・病診連携の推進を図る必要がある。

【参考値】

R2年4月～R3年1月

・医療機器の共同利用件数

MRI	129件	(全利用件数 1,706件)
CT	73件	(全利用件数 5,550件)
内視鏡	2件	(全利用件数 1,557件)
エコー	11件	(全利用件数 3,314件)

(令和3年1月31日時点)

- ・医療連携登録医 66施設・81名
- ・協力医療機関連携施設 62施設
- ・紹介率 33.4%
- ・逆紹介率 14.5%
- ・地域(市内)医療機関の市立病院利用率 82.2%

○周辺の他の医療機関との連携について

医師会への外来予定表、当直予定表等の情報提供を積極的に行い、医師会への入会を目指します。また、地域の診療所との地域医療連携の推進のため、引き続きMRI、CT、内視鏡及びエコーの共同利用を推進し、マンモグラフィ及び高気圧酸素治療装置等の医療機器の共同利用も推進します。

市が開催する市内等病院との意見交換会に参加し、「顔の見える関係性」を深めるとともに、会議の場において、積極的に情報提供をします。

・共同利用件数(年間)

MRI	150件
CT	100件
内視鏡	5件
エコー	15件

医療連携登録医及び協力医療機関連携施設の登録数の増大を目指し、積極的にPRします。

(令和4年3月31日時点)

- ・医療連携登録医 70施設
- ・協力医療機関連携施設 65施設

地域の医療機関との病病・病診連携及び協力体制を重視し、さらなる紹介率及び逆紹介率の向上を目指し、紹介された患者の状況や診療結果の報告、退院時に紹介元へ戻す旨の報告・連絡の徹底に加え、紹介を受けた患者以外でも、病院での治療を終え症状が落ち着いたら、その後の継続した観察を必要に応じて地域の診療所に逆紹介します。

- ・紹介率 38%
- ・逆紹介率 20%

○地域医療連携推進のための組織・体制及び方法等について

地域医療連携室の専任職員(看護師1名・メディカルソーシャルワーカー3名・事務職員2名)を配置し、紹介・逆紹介及び入退院調整を推進します。

専任職員が地元医療機関を積極的に訪問することによって、地元医療機関のニーズを把握し、診療情報等の提供を行います。

やまと西和ネットの活用により、同ネット参加医療機関及び介護事業所との患者情報の共有等連携を強化するとともに、来院患者への同ネット参加を呼び掛けます。

市が取り組む在宅医療・介護連携推進事業に参画することにより、地域の医療機関や介護事業者など関係者間の連携強化を図ります。

病院事業計画（平成27年11月改定）	令和元年度 事業報告	令和2年度 中間報告																	
<p>1病院の基本方針 新病院のコンセプト ○救急医療の充実 本地域における二次救急医療に対応できる中核病院の必要性から、内科系、外科系、小児科系の二次救急医療の充実を図る。</p> <p>●救急医療体制 市内の二次救急体制で中心的な役割を果たすことを目指し、内科系二次・外科系一次二次輪番体制へ参加するとともに、北和小児科二次輪番体制等への参加や休日夜間応急診療所のバックアップを行います。さらに、救急告示病院として、市消防本部救急隊との連携連絡を緊密にし、かつ当直体制を開示し、24時間体制での救急受入れをします。</p> <p>（具体的な体制）</p> <table border="1" data-bbox="137 824 475 1240"> <thead> <tr> <th>診療分野</th> <th>稼働内容</th> <th>稼働回数 (1月あたり)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>内科系</td> <td>市内内科系・外科系一次二次輪番体制への参加</td> <td>内科系5回</td> </tr> <tr> <td>外科系</td> <td></td> <td>外科系5回</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">小児科</td> <td>奈良県北和小児科二次輪番体制への参加</td> <td>休日 2回 夜間 2回</td> </tr> <tr> <td>休日夜間応急診療所のバックアップ（休日夜間の一次救急）</td> <td>10回 (※1)</td> </tr> <tr> <td>産婦人科 (※2)</td> <td>奈良県北和産婦人科一次救急医療体制への参加</td> <td>10回</td> </tr> </tbody> </table> <p>(※1) 現在、休日夜間応急診療所（メディカルセンター）で小児科医師が当直している火・木・土・日（うち火・木は22:00～24:00の当直）以外の曜日を小児一次救急担当日とし、開院当初は、当該担当日の月・水・金は20時から24時までは総合診療医を配置します。ただし、開院後3年を目途に小児科医師を1名増員することで、小児救急の充実を図ります。</p> <p>(※2) 産婦人科については、一次・二次診療を行います。産婦人科緊急手術、分娩、ハイリスク分娩に対応します。但し、未熟児分娩が予想される場合はNICUを有する北和三次救急施設と緊密な連携を取り迅速な対応をします。</p>	診療分野	稼働内容	稼働回数 (1月あたり)	内科系	市内内科系・外科系一次二次輪番体制への参加	内科系5回	外科系		外科系5回	小児科	奈良県北和小児科二次輪番体制への参加	休日 2回 夜間 2回	休日夜間応急診療所のバックアップ（休日夜間の一次救急）	10回 (※1)	産婦人科 (※2)	奈良県北和産婦人科一次救急医療体制への参加	10回	<p>救急患者を「断らない」という姿勢のもと、24時間365日受け入れ体制を整え、地域住民が安心できる救急医療体制の充実に努めました。</p> <p>奈良県総合医療センター、近畿大学奈良病院等との連携のもと、救急患者の状態に応じた適切な救急医療を実施しました。</p> <p>○救急医療体制について</p> <ul style="list-style-type: none"> 救急受入件数 1,558件 (市内 955件、市外 603件) 救急応需率 95.2% <p>・市主催の市内等病院との救急等意見交換会に参加 2/21</p> <p>・市消防本部との意見交換会に参加 11/28</p> <p>・市内内科系二次・外科系一次二次輪番体制への参加に向けて常勤医師の当直体制を整えるとともに、救急患者の市内受入率の向上を目指し、輪番病院のバックアップに努めました。</p> <p>・北和小児科二次輪番体制への参加に向けて、引き続き北和地区小児科病院輪番体制参加病院連絡会に出席し、情報交換を行うとともに、小児科常勤医師については、紹介会社からの紹介や、グループ内での異動等、募集活動を続けましたが、増員に至りませんでした。</p> <p>・産婦人科常勤医師1名を確保し、2名体制となったことから、北和産婦人科一次救急医療体制への参加については、将来的な奈良県からの参加要請に対応できるようにになりました。</p>	<p>救急患者を「断らない」という姿勢のもと、24時間365日受け入れ体制を整え、地域住民が安心できる救急医療体制の充実に努めました。</p> <p>奈良県総合医療センター、近畿大学奈良病院等との連携のもと、救急患者の状態に応じた適切な救急医療を実施しました。</p> <p>○救急医療体制について</p> <ul style="list-style-type: none"> 救急受入件数 890件 (市内 528件、市外 362件) 救急応需率 94.1% <p>・下半期に市主催の市内等病院との意見交換会に参加予定</p> <p>・市内内科系二次・外科系一次二次輪番体制への参加に向けて、引き続き関係機関と協議を行うとともに、救急患者の市内受入率の向上を目指し、市内等輪番病院や休日夜間応急診療所のバックアップの役割を果たしました。</p> <p>・北和小児科二次輪番体制への参加に向けて、引き続き北和地区小児科病院輪番体制参加病院連絡会に出席し、情報交換を行うとともに、小児科常勤医師を増員しました。</p> <p>・北和産婦人科一次救急医療体制への参加については、将来的な奈良県からの参加要請に対応できるように、産婦人科常勤医師のさらなる確保に努めました。</p>
診療分野	稼働内容	稼働回数 (1月あたり)																	
内科系	市内内科系・外科系一次二次輪番体制への参加	内科系5回																	
外科系		外科系5回																	
小児科	奈良県北和小児科二次輪番体制への参加	休日 2回 夜間 2回																	
	休日夜間応急診療所のバックアップ（休日夜間の一次救急）	10回 (※1)																	
産婦人科 (※2)	奈良県北和産婦人科一次救急医療体制への参加	10回																	

課題等	令和3年度 生駒市立病院 事業計画書				
<p>○令和元年度実施状況調査 市内内科系二次・外科系一次二次輪番体制のバックアップに努めており、引き続き関係機関へ協議を進めることで輪番体制への参加を実現する必要がある。 北和小児科二次輪番体制への参加に向けて、体制の整備に努める必要がある。</p> <p>●令和2年度中間報告 市内内科系二次・外科系一次二次輪番体制のバックアップに努めており、引き続き関係機関へ協議を進めることで輪番体制への参加を実現していく必要がある。 小児科常勤医師を増員したことから、北和小児科二次輪番体制への参加に向けて、医療体制を整備する必要がある。</p> <p>【参考値】 R2年4月～R3年1月 救急受入件数 1,484件 救急応需率 92.1%</p>	<p>救急患者を「断らない」という姿勢のもと、24時間365日受け入れ体制を整え、地域住民が安心できる救急医療体制の充実を目指します。 奈良県総合医療センター、近畿大学奈良病院等との連携のもと、救急患者の状態に応じた適切な救急医療を実施します。 また、新型コロナウイルス疑似症患者の救急受入をします。</p> <p>○救急医療体制について</p> <table border="0"> <tr> <td>・救急受入件数</td> <td>1,700件</td> </tr> <tr> <td>・救急応需率</td> <td>95.0%</td> </tr> </table> <p>・市が開催する市内等病院との意見交換会に参加し、救急医療の連携強化を目指します。</p> <p>・<u>市内内科系二次・外科系一次二次輪番体制への参加に向けて、引き続き、関係機関と協議を行うとともに、救急患者の市内受入率の向上を目指し、市内等輪番病院や休日夜間応急診療所のバックアップの役割を果たします。</u></p> <p>・<u>奈良県と情報交換をしながら、小児二次医療体制の整備に努め、北和小児科二次輪番へ参加します。</u></p> <p>・北和産婦人科一次救急医療体制への参加については、将来的な奈良県からの参加要請に対応できるように、産婦人科診療体制を整備します。</p>	・救急受入件数	1,700件	・救急応需率	95.0%
・救急受入件数	1,700件				
・救急応需率	95.0%				

病院事業計画（平成27年11月改定）	令和元年度 事業報告	令和2年度 中間報告										
<p>●救急に対する人員体制 医師・看護師・薬剤師・放射線技師・検査技師及び事務職員の当直体制をとります。</p> <p>（具体的な体制）</p> <table border="1" data-bbox="113 360 464 775"> <thead> <tr> <th></th> <th>人員体制</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>通常時</td> <td>内科系・外科系医師各1名、検査技師・放射線技師・薬剤師各1名の当直体制</td> </tr> <tr> <td>北和小児科二次輪番日</td> <td>通常時当直体制＋小児科医師1名の当直</td> </tr> <tr> <td>休日夜間応急診療所のバックアップ(小児科)担当日</td> <td>通常時当直体制＋総合診療医1名を20時～24時の間で配置</td> </tr> <tr> <td>北和産婦人科一次救急当番日</td> <td>通常時当直体制＋産婦人科医1名の当直</td> </tr> </tbody> </table>		人員体制	通常時	内科系・外科系医師各1名、検査技師・放射線技師・薬剤師各1名の当直体制	北和小児科二次輪番日	通常時当直体制＋小児科医師1名の当直	休日夜間応急診療所のバックアップ(小児科)担当日	通常時当直体制＋総合診療医1名を20時～24時の間で配置	北和産婦人科一次救急当番日	通常時当直体制＋産婦人科医1名の当直	<p>○救急に対する人員体制 救急受入体制として、医師、看護師、検査技師、放射線技師、薬剤師、事務職員の当直等、患者数に応じて必要な人員体制を整備するとともに、当直・オンコール体制のさらなる充実を図りました。</p> <p>（夜間救急受入体制）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師 1名の時間外担当医及び1名の常勤当直医の2名体制 専門医によるオンコール体制 ・外来看護師 2名の当直 ・放射線技師、検査技師、薬剤師、事務職員 各1名の当直 	<p>○救急に対する人員体制 救急受入体制として、医師、看護師、検査技師、放射線技師、薬剤師、事務職員の当直等、患者数に応じて必要な人員体制を整備するとともに、当直・オンコール体制のさらなる充実を図りました。</p> <p>（夜間救急受入体制）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師 1名の時間外担当医及び1名の常勤当直医の2名体制 専門医(各診療科)によるオンコール体制 ・外来看護師 2名の当直 ・放射線技師、検査技師、薬剤師、事務職員 各1名の当直
	人員体制											
通常時	内科系・外科系医師各1名、検査技師・放射線技師・薬剤師各1名の当直体制											
北和小児科二次輪番日	通常時当直体制＋小児科医師1名の当直											
休日夜間応急診療所のバックアップ(小児科)担当日	通常時当直体制＋総合診療医1名を20時～24時の間で配置											
北和産婦人科一次救急当番日	通常時当直体制＋産婦人科医1名の当直											
<p>●診療科毎の対応レベル</p> <table border="1" data-bbox="113 824 464 1576"> <thead> <tr> <th></th> <th>対応レベル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>内科(二次輪番)</td> <td>諸検査(CT・MRI・X線・血液等)及び緊急入院は可、二次救急レベルまで対応可(例:重症の呼吸・循環・腎不全等は対処不能)</td> </tr> <tr> <td>外科・整形外科・脳神経外科(二次輪番)</td> <td>諸検査(CT・MRI・X線・血液等)及び緊急入院は可、二次救急レベルまで対応可(例:重症の多発外傷や重症熱傷等は対処不能)</td> </tr> <tr> <td>小児科(二次輪番)</td> <td>諸検査(CT・MRI・X線・血液等)及び緊急入院は可、二次救急レベルまで対応可</td> </tr> <tr> <td>産婦人科(二次輪番)</td> <td>諸検査(CT・MRI・X線・血液等)及び緊急入院は可、二次救急レベルまで対応可(未熟児出産を伴う早産は未熟児センターと連携するまで対応不可)</td> </tr> </tbody> </table>		対応レベル	内科(二次輪番)	諸検査(CT・MRI・X線・血液等)及び緊急入院は可、二次救急レベルまで対応可(例:重症の呼吸・循環・腎不全等は対処不能)	外科・整形外科・脳神経外科(二次輪番)	諸検査(CT・MRI・X線・血液等)及び緊急入院は可、二次救急レベルまで対応可(例:重症の多発外傷や重症熱傷等は対処不能)	小児科(二次輪番)	諸検査(CT・MRI・X線・血液等)及び緊急入院は可、二次救急レベルまで対応可	産婦人科(二次輪番)	諸検査(CT・MRI・X線・血液等)及び緊急入院は可、二次救急レベルまで対応可(未熟児出産を伴う早産は未熟児センターと連携するまで対応不可)	<p>○救急についての診療科毎の対応レベルについて 休日・夜間の診療対応レベルは、CT、MRI、X線、血液等の諸検査及び緊急入院に対応可能な体制を継続しました。また、CAGによる心臓カテーテル検査及び治療、内視鏡検査及び手術にも対応可能な体制を維持しました。</p> <p>産婦人科のハイリスク分娩については、引き続き奈良県総合医療センターとの連携体制が確立しています。</p>	<p>○救急についての診療科毎の対応レベルについて 休日・夜間の診療対応レベルは、CT、MRI、X線、血液等の諸検査及び緊急入院に対応可能な体制を継続しました。また、CAGによる心臓カテーテル検査及び治療、内視鏡検査及び手術にも対応可能な体制を維持しました。</p> <p>産婦人科のハイリスク分娩については、引き続き奈良県総合医療センターとの連携体制が確立しています。</p>
	対応レベル											
内科(二次輪番)	諸検査(CT・MRI・X線・血液等)及び緊急入院は可、二次救急レベルまで対応可(例:重症の呼吸・循環・腎不全等は対処不能)											
外科・整形外科・脳神経外科(二次輪番)	諸検査(CT・MRI・X線・血液等)及び緊急入院は可、二次救急レベルまで対応可(例:重症の多発外傷や重症熱傷等は対処不能)											
小児科(二次輪番)	諸検査(CT・MRI・X線・血液等)及び緊急入院は可、二次救急レベルまで対応可											
産婦人科(二次輪番)	諸検査(CT・MRI・X線・血液等)及び緊急入院は可、二次救急レベルまで対応可(未熟児出産を伴う早産は未熟児センターと連携するまで対応不可)											

課題等	令和3年度 生駒市立病院 事業計画書
<p>○令和元年度実施状況調査 当直可能な医師2名、看護師、放射線技師、検査技師、薬剤師、事務職員の24時間365日の救急受入体制が維持されているものの、当直・オンコール体制に参加できる脳神経外科及び整形外科の常勤医師の確保に努める必要がある。</p> <p>●令和2年度中間報告 当直・オンコール体制に参加できる脳神経外科及び整形外科の常勤医師の確保に努める必要がある。</p>	<p>○救急に対する人員体制 救急受入体制として、医師、看護師、検査技師、放射線技師、薬剤師、事務職員の当直等、患者数に応じて必要な人員体制を引き続き整備します。特に<u>脳神経外科、整形外科等の常勤医師の確保に努め、当直・オンコール体制のさらなる充実を目指します。</u></p> <p>(夜間救急受入体制)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師 1名の時間外担当医及び1名の常勤当直医の2名体制 各診療科専門医によるオンコール体制 ・外来看護師 2名の当直 ・放射線技師、検査技師、薬剤師、事務職員 各1名の当直 <p>○救急についての診療科毎の対応レベルについて 休日・夜間の診療対応レベルは、CT、MRI、X線、血液等の諸検査及び緊急入院に対応可能な体制を継続します。また、CAGによる心臓カテーテル検査及び治療、内視鏡検査及び手術にも対応可能な体制を充実します。 産婦人科のハイリスク分娩については、引き続き、奈良県総合医療センターとの連携体制で対応します。</p>

病院事業計画（平成27年11月改定）	令和元年度 事業報告	令和2年度 中間報告
<p>1病院の基本方針 新病院のコンセプト ○小児医療の充実</p> <p>本地域における小児二次医療の充実の必要性から、地域医療機関との役割分担のもと、二次医療までの対応が可能な小児医療を提供する。</p>	<p>小児の入院患者の受入れ等小児二次医療体制の整備に努めました。</p> <p>○小児医療体制について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常勤医師2名体制を目指し、平成30年1月に着任した常勤医師に加えて、もう1名の確保に努めました。 ・北和小児科二次輪番体制への参加を目指し、北和地区小児科病院輪番体制参加病院連絡会に出席しました。 	<p>小児の入院患者の受入れ等小児二次医療体制の整備に努めました。</p> <p>○小児医療体制について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年1月に着任した常勤医師に加えて、令和2年7月に常勤医師を確保し、常勤医師2名体制になりました。 ・北和小児科二次輪番体制への参加を目指し、WEB会議での北和地区小児科病院輪番体制参加病院連絡会に出席しました。
<p>1病院の基本方針 新病院のコンセプト ○災害時医療の確保</p> <p>大規模災害時において、傷病者の受入れや医療救護に対応可能な応急用医療資機材等を備えるなど、災害に対する緊急対応ができる機能を確保する。</p>	<p>大規模災害時において、傷病者の受入れや医療救護に対応可能な体制整備をはじめ機能の強化に努めました。</p> <p>○災害時医療体制の確立について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6/19 3/18 消防訓練実施（通報訓練・初期消火訓練・避難誘導訓練） ・防災訓練（トリアージ・患者受入訓練） 新型コロナウイルス感染拡大防止のため未実施 ・5/10 11/7 市主催の防災行政無線通信訓練に参加 	<p>大規模災害時において、傷病者の受入れや医療救護に対応可能な体制整備をはじめ機能の強化に引き続き努めました。</p> <p>○災害時医療体制の確立について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8/19 消防訓練実施（通報訓練・初期消火訓練・避難誘導訓練） ・防災訓練（トリアージ・患者受入訓練）は下半期に実施予定 ・市が開催した新型コロナウイルス感染症に関する今後の対応等の意見交換会に参加 4/28、5/27
<p>1病院の基本方針 新病院のコンセプト ○予防医療の啓発</p> <p>市立病院であることから、市民の公衆衛生意識の高揚を図るための講習を行うなど、市の保健行政と連携し、保健知識の啓発を図る。</p> <p>●疾病予防機能の強化について</p> <p>疾病予防に向けて、メタボリック・シンドロームや生活習慣病等についての医療講演会を定例的に開催します。（講演会の講師は医師、看護師、管理栄養士、理学療法士等院内のスタッフや院外の医療従事者が務めます。）</p> <p>また、市民健診や予防接種について、市医師会と連携して、二次健診の分担等の協力体制を整備します。</p>	<p>市民の疾病予防と疾病の早期発見・早期治療、重症化の防止を目的として、医療に関する基礎知識や最新の情報を医療講演会を通して提供しました。</p> <p>また、二次健診の受診増を目的として、市内医療機関への医療機能についての情報提供を充実しました。</p> <p>○疾病予防機能の強化について</p> <p>市が実施した医療講演会を支援しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9/25「超高齢社会における在宅医療のあり方」56名参加 胃がん（胃内視鏡）検診については、平成29年9月1日から引き続き実施しています。 乳がん健診の実施に向けて、令和2年3月に乳房X線撮影装置（マンモグラフィ）を導入しました。 ・医療講演会 72講座 参加者 2,126名 ・市民健診 <ul style="list-style-type: none"> 大腸がん検診 371件 胃がん（胃内視鏡）検診 117件 肝炎ウイルス検診 14件 特定健診 877件 一般健診 1,717件 生活保護者等の健康診査 3件 人間ドック・脳ドック 919件 その他団体健診等 1,593件 ・高齢者定期予防接種 <ul style="list-style-type: none"> インフルエンザ 421件 肺炎球菌 72件 	<p>市民の疾病予防と疾病の早期発見・早期治療、重症化の防止を目的として、医療に関する基礎知識や最新の情報を医療講演会を通して提供しました。</p> <p>また、二次健診の受診増を目的として、市内医療機関への医療機能についての情報提供を充実しました。</p> <p>○疾病予防機能の強化について</p> <p>市民との交流、健康づくりを推進するため、自治会等各種団体への出張講座の積極的な実施を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施できませんでした。</p> <p>また、子宮頸がん検診については令和2年4月から実施し、乳がん健診については下半期からの実施に向けて、体制を整備しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療講演会 22講座 参加者 243名 （内オンライン開催13講座 参加者47名） ・拡大医療講演会を北地区において、5月17日開催予定で自治会関係者等と調整しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、延期となりました。 ・市民健診 <ul style="list-style-type: none"> 大腸がん検診 138件 胃がん（胃内視鏡）検診 27件 子宮頸がん検診 91件 肝炎ウイルス検診 6件 特定健診 355件 一般健診 678件 生活保護者等の健康診査 3件 人間ドック・脳ドック 545件 その他団体健診等 1,470件 ・高齢者定期予防接種 <ul style="list-style-type: none"> 肺炎球菌 37件（R1上半期36件） インフルエンザ予防接種は下半期に実施予定

課題等	令和3年度 生駒市立病院 事業計画書																																														
<p>○令和元年度実施状況調査 小児二次医療の充実や小児救急の実施に向け、体制の整備に努める必要がある。</p> <p>●令和2年度中間報告 小児救急の実施に向けて、引き続きさらなる常勤医師の確保に努める必要がある。</p>	<p>小児の救急対応、入院患者の受け入れ等小児二次医療体制の整備を行います。</p> <p>○小児医療体制について ・北和小児科二次輪番へ参加します。</p>																																														
	<p>大規模災害時において、傷病者の受け入れや医療救護に対応可能な体制を引き続き整備します。</p> <p>○災害時医療体制の確立について 災害対策マニュアルに沿って現場スタッフや、状況に応じては地域住民も参加する実地訓練を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防訓練 (通報訓練・初期消火訓練・避難誘導訓練) ・防災訓練 (トリアージ・患者受入訓練・机上訓練) <p>市が実施する総合防災訓練に参加、協力します。 市が開催する市内等病院との意見交換会に参加し、病病連携強化を図ります。</p>																																														
<p>○令和元年度実施状況調査 市民の健康づくりや疾病予防を促進するためには、院内の講演会の充実に加え、自治会や学校、企業、各種団体・グループ等対象を広げて、より一層広域的に市民にPRする必要があります。</p> <p>●令和2年度中間報告 市民の健康づくりや疾病予防を促進するために、コロナ禍が収まった折には、院内講演の充実に加え、できる限り自治会や学校、企業、各種団体・グループ等対象を広げて出張講座を実施し、より一層広域的に市民に啓発する必要があります。</p> <p>【参考値】 R2年4月～R3年1月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民健診 <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr><td>大腸がん検診</td><td>291件</td></tr> <tr><td>胃がん(胃内視鏡)検診</td><td>57件</td></tr> <tr><td>乳がん検診</td><td>38件</td></tr> <tr><td>子宮頸がん検診</td><td>201件</td></tr> <tr><td>肝炎ウイルス検診</td><td>11件</td></tr> <tr><td>特定健診</td><td>775件</td></tr> <tr><td>一般健診</td><td>1,159件</td></tr> <tr><td>生活保護者等の健康診査</td><td>4件</td></tr> <tr><td>人間ドック・脳ドック</td><td>1,008件</td></tr> <tr><td>その他団体健診等</td><td>1,674件</td></tr> </table> ・高齢者定期予防接種 <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr><td>インフルエンザ</td><td>682件</td></tr> <tr><td>肺炎球菌</td><td>64件</td></tr> </table> 	大腸がん検診	291件	胃がん(胃内視鏡)検診	57件	乳がん検診	38件	子宮頸がん検診	201件	肝炎ウイルス検診	11件	特定健診	775件	一般健診	1,159件	生活保護者等の健康診査	4件	人間ドック・脳ドック	1,008件	その他団体健診等	1,674件	インフルエンザ	682件	肺炎球菌	64件	<p>市民の疾病予防と疾病の早期発見・早期治療、重症化の防止を目的として、医療に関する基礎知識や最新の情報を医療講演会を通して提供します。</p> <p>○疾病予防機能の強化について <u>市民の健康づくりや疾病予防を促進するため、院内講演の充実に加え、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況をみながら、自治会等各種団体への出張講座を積極的に実施します。</u> 市民の幅広い年代層が健診を受けやすくするよう努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民健診 <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr><td>大腸がん検診</td><td>300件</td></tr> <tr><td>胃がん(胃内視鏡)検診</td><td>80件</td></tr> <tr><td>乳がん検診</td><td>120件</td></tr> <tr><td>子宮頸がん検診</td><td>230件</td></tr> <tr><td>肝炎ウイルス検診</td><td>15件</td></tr> <tr><td>特定健診</td><td>800件</td></tr> <tr><td>一般健診</td><td>1,200件</td></tr> <tr><td>人間ドック・脳ドック</td><td>1,050件</td></tr> <tr><td>その他団体健診等</td><td>1,700件</td></tr> </table> ・高齢者定期予防接種 <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr><td>インフルエンザ</td><td>700件</td></tr> <tr><td>肺炎球菌</td><td>70件</td></tr> </table> 	大腸がん検診	300件	胃がん(胃内視鏡)検診	80件	乳がん検診	120件	子宮頸がん検診	230件	肝炎ウイルス検診	15件	特定健診	800件	一般健診	1,200件	人間ドック・脳ドック	1,050件	その他団体健診等	1,700件	インフルエンザ	700件	肺炎球菌	70件
大腸がん検診	291件																																														
胃がん(胃内視鏡)検診	57件																																														
乳がん検診	38件																																														
子宮頸がん検診	201件																																														
肝炎ウイルス検診	11件																																														
特定健診	775件																																														
一般健診	1,159件																																														
生活保護者等の健康診査	4件																																														
人間ドック・脳ドック	1,008件																																														
その他団体健診等	1,674件																																														
インフルエンザ	682件																																														
肺炎球菌	64件																																														
大腸がん検診	300件																																														
胃がん(胃内視鏡)検診	80件																																														
乳がん検診	120件																																														
子宮頸がん検診	230件																																														
肝炎ウイルス検診	15件																																														
特定健診	800件																																														
一般健診	1,200件																																														
人間ドック・脳ドック	1,050件																																														
その他団体健診等	1,700件																																														
インフルエンザ	700件																																														
肺炎球菌	70件																																														

病院事業計画（平成27年11月改定）	令和元年度 事業報告	令和2年度 中間報告
<p>1病院の基本方針 新病院のコンセプト ○市民参加による運営 条例で設置された市民の代表が参加する病院事業推進委員会において、運営の基本となる病院事業計画、指定管理者との協定及び運営状況の改善について審議し、市民参加による病院運営を実現する。</p>	<p>市立病院の運営状況等について、病院事業推進委員会や市立病院管理運営協議会等を通して、市民等に情報を提供するとともに、市民等の意見を聴取することで、市民参加による病院運営を推進しました。また、市民にとって親しみを感じられる病院を目指し、各種市民交流行事を開催しました。</p> <p>○市民の意見の反映の仕組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市立病院管理運営協議会開催 年度事業報告書に係る実施状況調査（中間報告を含む）について市立病院管理運営協議会等で評価、意見聴取し、年度事業計画に反映しました。 ・入院・外来患者アンケート調査を実施（実施機関H31. 3月～R1. 7月） 患者満足度（総合評価の評点） 入院 88.1点 外来 78.8点 ・ご意見箱等の内容に対応 ご意見箱等の内容に対して、速やかに対応するよう努めました。 アンケートの調査結果等の公表方法についての検討に時間を要したため、公表に至りませんでした。 <p>○市民交流事業について 市立病院を市民に親しみを感じてもらうために、市民交流事業を開催しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康フェスティバル 6/16 約500名参加 ・院内コンサート等 12/7 クリスマスコンサート開催 	<p>市立病院の運営状況等について、病院事業推進委員会や市立病院管理運営協議会等を通して、市民等に情報を提供するとともに、市民等の意見を聴取することで、市民参加による病院運営を推進しました。また、市民にとって親しみを感じられる病院を目指し、市民交流行事として健康フェスティバルを開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、今年度は中止しました。</p> <p>○市民の意見の反映の仕組み 退院時患者アンケート調査等の結果、改善の取組及び対応できない理由について、下半期には、ホームページや病院だよりでの公表、病院事業推進委員会や市立病院管理運営協議会への報告等を行い、広く市民等に周知する予定です。 また、年度事業報告書に係る実施状況調査について市立病院管理運営協議会で評価、意見聴取し、次年度の事業計画作成時に反映させる予定です。</p> <p>〈健康フェスティバル〉 6月21日開催予定で準備をしていましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により今年度は中止</p> <p>〈院内コンサート〉 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、下半期の実施については未定</p>
<p>1病院の基本方針 新病院のコンセプト ○環境に配慮した運営 新病院の運営にあたっては、環境マネジメントシステムであるISO（国際標準化機構）14000シリーズの認証取得を目指す。</p>	<p>引き続き市の環境マネジメントシステムのエコオフィスの取組を推進しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミックスペーパーなど資源ごみの分別回収を強化しました。 ・日々の電気・ガス・水道使用料を毎朝のミーティングで幹部職員に周知し、院内での省エネルギー化の啓発を図りました。 	<p>引き続き市の環境マネジメントシステムのエコオフィスの取組を推進しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミックスペーパーなど資源ごみの分別回収を強化しました。 ・日々の電気・ガス・水道使用料を毎朝のミーティングで幹部職員に周知し、院内での省エネルギー化の啓発を図りました。

課題等	令和3年度 生駒市立病院 事業計画書
<p>○令和元年度実施状況調査 入院・外来患者アンケート調査結果を精査し、評価・満足度の高い項目は、さらに向上を目指す。 また、評価・満足度の低い項目は、原因を分析し、課題の抽出、改善策の検討を行い、具体的に次年度以降の計画に反映させる必要がある。</p>	<p>市立病院の運営状況等について、病院事業推進委員会や市立病院管理運営協議会等を通して、市民等に情報を提供するとともに、市民等の意見を聴取することで、市民参加による病院運営を推進します。また、市民にとって親しみを感じられる病院を目指し、各種市民交流行事を開催します。</p> <p>○市民の意見の反映の仕組み <u>入院・外来患者アンケート調査の結果、ご意見箱の意見、改善の取組及び対応できない理由について、院内掲示、ホームページでの公表、病院事業推進委員会や市立病院管理運営協議会への報告など広く市民等に周知します。</u> また、年度事業報告書に係る実施状況調査（中間報告を含む）について市立病院管理運営協議会等で評価、意見聴取し、年度事業計画に反映します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院事業推進委員会 ・市立病院管理運営協議会 ・入院・外来患者アンケート調査 ・ご意見箱の内容に対する対応 <p>○市民交流事業について 市立病院を市民に親しみを感じてもらうために、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況をみながら、市民交流事業を開催します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康フェスティバル ・院内コンサート等
	<p>引き続き市の環境マネジメントシステムのエコオフィスの取組を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミックスペーパーなど資源ごみの分別回収を強化します。 ・日々の電気・ガス・水道使用料を毎朝のミーティングで幹部職員に周知することで、院内での省エネルギー化の啓発を図ります。

収支

(単位 千円)

令和2年度事業計画	令和3年度事業計画	前年度との差額
医業収入 3,922,227	医業収入 4,029,490	医業収入 107,263
医業費用 3,915,637	医業費用 3,962,878	医業費用 47,241
医業利益 6,590	医業利益 66,612	医業利益 60,022
その他費用 253,602	その他費用 251,063	その他費用 △ 2,539
医業外収益 20,000	医業外収益 20,000	医業外収益 0
医業外費用 0	医業外費用 0	医業外費用 0
経常利益 △ 227,012	経常利益 △ 164,451	経常利益 62,561